

教育行政について 学校統廃合問題について質問します。

福山市学校規模・学校配置の適正化計画についてであります。

福山市教育委員会は、8月24日の文教経済委員会で、小中学校の再編計画について、統廃合の対象校を、東村、山野、広瀬、服部、内浦、内海の6小学校、と、山野、広瀬、内海の3中学校とする、と公表しました。

これについて、対象校となった学校関係者や地域住民から、反対の声が相次いで上げられています。

山野小・中学校の保護者と地域住民は、山野小・中学校の存続を求める要望署名4174人分を市教委に提出しました。「学校の統合は子ども達が地域への誇りを失う可能性がある」と訴えています。

また、内海町では、8月28日に行われた議会報告会で、内浦小学校の保護者が「歩いて通える場所に、学校と保育所があり、安心して子育てができる」「大規模校から転校した人もおり、廃校となれば町に活気がなくなる。内浦小をなくさないで」と訴えていました。

内海小学校の地域住民からも「地元の意見を真摯に受け止めよ」

と、内海町の学校の存続を求める要望が出されていました。

東村や服部小学校、広瀬小・中学校でも「地域から学校がなくなるのはさびしい」との声が聞かれます。

さらに、2015年度市政懇談会でも、各ブロックで学校の存続を求める要望意見が出されたとの、ことです。

地域住民や、保護者からの、学校存続の要望について、どのように受け止めているのか、お示し下さい。

小・中学校の廃校は、地域住民の交流の場が失われ、人口減少と過疎化に拍車をかけている事例は、全国で見られます。

例えば、岐阜県高山市の高根町では、合併前の人口が700人台で推移していましたが、小・中学校廃校により、400人台となりました。高齢化率は、廃校前には30%台だったものが、50%超になったとのことです。

学校の統廃合は、人口減少に拍車をかけ、定住促進に奮闘している地域住民に冷や水を浴びせ、『地方創生』にすら逆行します。

笠岡市では、学校統廃合は、定住者の増加を目指すなどの、対策

をまとめた笠岡市総合戦略を受け、見直すことが、報道されました。

本市も、8月27日に総合戦略推進懇話会が開催され、今後、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域づくりを進める矢先での、学校統廃合は、市の施策展開として整合性がありません。

学校の統廃合は、地域の過疎化と人口減少に拍車をかけますが、その影響をどのように考えているのか、明確にお答えください。

また、8月24日における文教経済委員会で「学校統廃合で人口動態がどのようになったか調査を検討する」との答弁でした。

学校統廃合により、地域の児童生徒数が増えた学区・自治体があれば、詳細についてお答えください。

次に、小規模校が子どもへ与える教育的効果について質問します。

小規模校では、少人数の中で、一人ひとりの子どもに教師が丁寧に向き合い、人間らしさを回復させる教育実践が行われています。

そのような学校を残してほしいと要望するのは、保護者としては

当然の要求です。

ある山間部の小学校へ転入した生徒は、転入前には市内の大規模校に通学していました。

生徒同士の様々なトラブルで不登校となり、途方に暮れていた時に、山間部の定住促進住宅を紹介されたそうです。

そして、「藁にもすがる思いで募集し、家族で小規模校に移転。

今では見違えるように明るくなり、積極的に地域住民に挨拶ができるようになり、勉強も進んでするようになった」と話していました。

6月議会の本会議答弁では「一定の集団規模で子ども達が切磋琢磨することに視点を置いている」とのことでしたが、大集団に馴染めない子どもの教育の場を保障することが重要です。

学校選択制を活用して、少人数校で教育を受けている児童・生徒の教育権の保障について、どのように認識しているのか、お答えください。

今回の6小学校3中学校の統廃合計画は、計画段階で、早くも多

数の学校存続を求める要望署名が提出されたり、保護者や地域、学区から反対要望が出されるなど、市民世論が沸騰しています。

寄せられた意見を真摯に受け止め、本計画を一旦白紙に戻すことを求めます。

以上についてお答えください。

答弁<市長>

次に、学校の再編が地域に与える影響についてであります。

このたびの学校規模と学校配置の適正化の取り組みは、教育的観点に基づき行うものであり、取り組みに当たっては、地域のまちづくりの観点から、関係部署と連携し、地域の活性化の視点をもって、取り組む必要があると考えております。

なお、学校再編は、児童生徒数の推移と将来推計に基づき、教育的観点から取り組むものであります。

次に、少人数校で教育を受けている児童・生徒の教育権の保障についてであります。

これまで小集団で学んできた子どもたちにとっては、集団への適

応や友達との人間関係づくりなど不安を抱くことが予想されます。

こうした課題につきましては、再編前に、関係校の教職員が、子どもたちの不安や課題を共有し、新しい学校生活の円滑なスタートに向けた準備を進めてまいります。

再編後におきましても、個別の学習支援や環境の変化による不安・悩みなどへの相談対応を行う教員や非常勤講師の配置を検討してまいります。

今後、保護者や地域の方々に、計画内容の丁寧な説明を行うとともに、意見を聴き、課題の共有と円滑な合意形成に努めてまいります。